

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02506

研究課題名（和文）啓蒙主義からアメリカの知的独立にいたる宗教の変貌

研究課題名（英文）The Transformation of Religion from Enlightenment to American Cultural Independence

研究代表者

小倉 いずみ (Ogura, Izumi)

大東文化大学・法学部・教授

研究者番号：00185563

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は科学の進歩により宗教が影響力を弱めた18世紀のアメリカにおいて、啓蒙思想がどのように導入されたかを解説した。人間の知性に重点を置く啓蒙主義の思想が広まった例証としてマサチューセッツ、コネチカット、ニューヨークの各植民地の公定教会制度の崩壊を分析した。啓蒙主義の産物として登場した理神論についてフランクリンやジェファソンの著作を中心として論じ、建国期のユニテリアン主義を分析し、Ralph Waldo Emersonにいたるアメリカの知的独立への変貌を明らかにした。また植民地創設の際に発効された勅許状を根拠に建国期の旧北西部への領土拡大を狙った各植民地の意図を探った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はピューリタニズムの衰退をスタート地点として、啓蒙主義の分析、理神論と知識人、大衆の中の大覚醒、アメリカの知的独立を解明した。科学が登場する1690年代からアメリカの知的独立を呼びかける1830年頃までの宗教を分析し、宗教の衰退と科学との「せめぎ合い」を明らかにした。フランクリンとジェファソンの理神論を解説し、道徳が人々の意識に大きな影響を持った建国期の思想を解明した。また政治における13植民地の動きを北東部を中心に分析し、英国から独立後に移譲された旧北西部の領土をめぐる争いをマサチューセッツとコネチカットの勅許状と関連づけて解説し、古地図により明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research explored how Puritanism in 17th century declined by the Enlightenment ideas and how it influenced on American revolution. Deism supported by Benjamin Franklin and Thomas Jefferson is characterized by human understanding of nature and science. The official church in Massachusetts, Connecticut, and New York was disestablished by the Constitution and it produced various evangelical sects with the emphasis on morality. Unitarianism changed Harvard divinity school and led to Emerson's transcendentalism. This research described the transformation of Puritanism through Deism in the 18th century to Romanticism in the 19th century.

研究分野：アメリカ思想史とアメリカ文学

キーワード：ニューヨーク植民地 コネチカット古地図 北西部条令 ペリー・ミラーと荒野 勅許状と領土 ヨーロッパからの啓蒙主義 チェコの政治と啓蒙主義

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

啓蒙主義は1700年代にヨーロッパからアメリカに輸入された思想であるが、その特徴は「人間の自立」である。「自己意識」はピューリタニズムの中にも見られ、アメリカ文学でこのselfに注目した Sacvan Bercovitch は *The Puritan Origins of the American Self* (1975) においてアメリカ人の自己意識の原型をピューリタニズムに見出し、力強いピューリタン像を復活させた。バーコヴィッチは Perry Miller が *Errand into the Wilderness* (1956) で展開したピューリタニズムの衰退の象徴である「エレミアの嘆き」の考えに反対し、嘆きではなく宗教を活性化する挑戦であると考えてアメリカ人の自己意識を再評価した。

本研究はピューリタニズムが育てた自己意識を探りながら、啓蒙主義によって宗教が衰退した後に登場するアメリカの自己の確立を分析した。啓蒙主義は牧師の養成機関であったハーバード大学やイエール大学で展開し、その後コロンビア大学やプリンストン大学にも広がった。啓蒙主義の影響を受けた教育は古いカルヴィン主義を放逐し、科学を学問の中心とした。宗教と科学の折衷は理神論として広まり、アメリカ革命を指導したトマス・ジェファソンやベンジャミン・フランクリンが信奉した。宗教が「道徳」に衰退する過渡期に理神論は触媒の働きをしたが、さらにユニテリアン主義が道徳を強調し古いカルヴィン主義的会衆主義に取って代わった。このような思想の変遷は建国期のアメリカの国民意識を促進し、Ralph Waldo Emerson が「アメリカの学者」で主張したアメリカ文化の知的独立につながった。

2. 研究の目的

本研究は以下の二つの目的を特色とした。(1)第一にアメリカにおける啓蒙主義の普及による教会制度の衰退を探り、大衆の地位の向上と宗教の世俗化を明らかにすること、(2)第二にアメリカ建国の父祖たちが信じた18世紀の理神論を具体的に著作によって解説すること、そしてそれがラルフ・エマソンの思想に繋がっていたことを証明することである。

(1)教会の衰退

牧師の養成機関であったハーバード大学は1690年代から啓蒙主義の影響により徐々に変貌した。会衆主義における救済への選抜や迷信的な奇蹟の概念に疑念が投げかけられ、大衆が理解できる宗教に変わった。また啓蒙主義の「理性」は感情を重んじるリバイバルと相いれないが、1740年代の大覚醒における宗教感情の重視は宗教の大衆化を推進した。ピューリタニズムにおいて隠れていた個人の宗教感情は、大覚醒で表出し、啓蒙主義の民主主義に影響されてさらに拡大した。大覚醒は宗教感情を重視する意味ではセンチメンタルな部分があるが、それは同時に啓蒙主義における経験や実験の重視につながる点があり、知性と感情は共存していた。

(2)理神論からエマソンの自立の思想への変遷

会衆主義における絶対的な神の存在を否定し、世界を神が創造した「完璧な機械」と考えて宗教と科学を融和させた理神論は、多くの知識人に支持された。フランクリンは“Letter to Ezra Stiles” (1790) においてピューリタンの道徳と勤勉さを世俗化し、ジェファソンは“Letter to Peter Carr” (1787) の中で、迷信的な奇蹟に疑問を持ち人間の理性を信頼するよう呼びかけた。建国の父祖たちは敬虔さを保持しつつ新しい科学を導入し、知性により人間を自立させてアメリカ独立革命の思想の源泉を創りだした。科学と宗教を微妙に組み合わせた理神論はカルヴィン主義的な人間性悪説を弱体化し、超自然的な奇蹟を信じる会衆主義は神の存在のみを認めるユニテリアン主義に取って代わられた。

教会は世俗化して社会の道徳を育成する一環にすぎなくなり、一般大衆は自己意識を持って自立するようになった。教会という重荷がなくなった社会では、人々は実験と経験をもとに自分で考えて判断するようになった。宗教の衰退は公定制度の廃止に見ることができる。ジェファソンはヴァージニア信教自由法を1787年に制定し、ヴァージニアにおける英国国教会の公定制度を廃止した。アメリカ合衆国憲法の修正第一条は信教の自由を保障し、国教の樹立を禁止した。マサチューセッツやコネチカットにおける公定制度は1833年まで存続するが、ユニテリアン主義はエマソンが広めた「自己信頼」の思想に繋がった。本研究は啓蒙主義をスタート地点とし、着地点はエマソンが呼びかけたアメリカの知的独立宣言であった。

3. 研究の方法

本研究はアメリカでの現地調査を進めながら、研究成果を日本とアメリカの学会で発表した。

(1)アメリカ人研究者の招聘

研究期間に本研究が招聘し大東文化大学で講演を行ったアメリカ人研究者は、ハーバード大学神学部教授の David Hall 先生とコルゲート大学英文学部教授の Sarah Ann Wider 先生である。また学習院女子大学においてカリフォルニア大学ロサンゼルス校英文学部教授の Michael Colacurcio 先生の講演会を共催した。さらにボストン大学歴史学部教授の Alan Lawson 先生を東京に招聘し、研究発表に関する打ち合わせを行った。

(2)国内外における研究発表

アメリカにおける研究発表は Northeast Modern Language Association で2回、全米ソロー学会で2回行った。Northeast MLA 年次大会については17年3月にメアリランド州ボルチモア市と19年3月にワシントン DC 郊外のナショナルハーバーにそれぞれ10日間程度出張して発表した。また20年3月にボストンでの会議に出席した。ボルチモアでの最初の発表は、ニューヨーク州立大学ブロッポート校教授の Greg Garvey 先生の司会のもとでパネリストの一人としてエマソンと奴隷制反対運動について発表した。2年後のナショナルハーバーの会議はセッション開催の手続きに慣れたので司会も担当し、エマソンとエドワーズを比較分析し、発表した。その際に Lebanon Valley College 教授の Gary Grieve-Carlson 先生が参加したので、それ以後海

外共同研究者として本プロジェクトに参加していただいている。全米ソロー学会は毎年7月にマサチューセッツ州コンコードで開催されるため、2回ともボストンに10日間出張した。全米ソロー学会はエマソンとソローの専門家が多数参加したので研究動向が理解できた。これらの学会報告は日本ソロー学会の研究論集に掲載された。国内では日本英文学会、日本アメリカ文学会、アメリカ学会において書評と論文を公表し、初期アメリカ学会で研究発表を行った。

(3) 現地調査

現地調査は研究発表をする際にできるだけ実施した。ボルチモア市に出張した途中でニューヨーク市に立ち寄り、マンハッタンに残るオランダ植民地の住居跡や総督だったスタイヴェサントの墓を確認し、彼の肖像画を所有するニューヨーク歴史協会から著作権使用の許可を得た。またジョージ・ワシントンが独立戦争時に本部としたフランセス・タバーンを調査した。ワシントンDCに出張した時は奴隷制反対運動に関する調査を実施し、リンカーン大統領が暗殺されたフォード劇場と死去したピーターセン・ハウスを訪れた。またナショナル・ギャラリー美術館では建国期のハドソン川学派を中心とするアメリカ絵画を確認した。コンコードに出張した際にはボストン第一教会と第三教会を調査した。

(4) 海外共同研究者との打ち合わせ

海外共同研究者はハーバード大学のホール先生、ジョンズ・ホプキンス大学文学部教授のLarzer Ziff先生、ボストン大学のローソン先生、レバノン・バレー大学のグリーブ・カールソン先生にアドバイスをお願いした。資料の収集だけではなく、私がアメリカで発表する前には原稿をチェックしていただき、論理的な構成に関するアドバイスをしていただいた。2021年のNortheast MLAではグリーブ・カールソン先生と共にセッションを計画している。

(5) ホームページにおける研究活動の公表

現地調査の結果と研究成果の公表に関してはホームページにおいて随時行なった。

(6) 研究分担者の実績

研究分担者の中根は2017年度から本研究に加わり、ヨーロッパの啓蒙主義を担当した。18年3月と19年9月にチェコに出張し資料収集を行い、18年9月から19年3月までチェコ科学アカデミーで在外研究を行った。18年には単著『政治的一体性と政党間競合』（吉田書店）において20世紀初頭のチェコ政党政治を分析した。以上の成果から、ハプスブルク君主国統治下において自らの文化が他の欧米の文化と遜色がないことを証明しようとしてきたチェコ人の営みが政治の場において何をもたらしたのかを明らかにした。

4. 研究成果

(1) 単著の出版

本研究の最大の成果は単著『トマス・フッカーとコネチカット』（金星堂、2020）である。過去の科学研究費の成果も含むが、ピューリタニズムや植民地の勅許状だけではなく時代を1700年代に移し、アメリカ独立革命まで進展させた。啓蒙主義を扱った第8章と建国時の各植民地の動きをまとめた第9章は本研究の成果である。またコロンブス以前の大陸から1833年までの詳細な年表と日本とアメリカにおける文献リストを収めた。この著書は科学研究費補助金研究成果公開促進費学術図書（課題番号19HP5040）を得て出版された。

(2) ピューリタニズム研究

本研究の期間4年間の前半2年はピューリタニズム研究のまとめを行い、ホール先生の東京講演を実施し、ローソン先生を大東文化大学に招聘した。また2017年にボルチモア市での発表の際にニューヨークに立ち寄り、オランダ植民地について現地調査をした。植民地時代研究の成果は『21世紀から見るアメリカ文学史』（英宝社、2018）と『授業力アップのための英語圏文化・文学の基礎知識』（開拓社、2017）に表れている。ボルチモア市での発表はエマソンと奴隷制反対運動に関する内容で後半2年間の19世紀の思想につなげた。

(3) エマソンと19世紀文学

後半2年間において書評2本を執筆したが、日本英文学会『英文学研究』においてはヘンリー・ソローについて、日本アメリカ文学会『アメリカ文学研究』においてはエマソンに関する著書の書評であった。これらの書評を通して本研究の研究対象は徐々に19世紀文学に移行した。全米ソロー学会での2回の発表はエマソンの著作に関する内容であった。2019年の全米ソロー学会の発表原稿はアメリカ学会の英文論集に掲載される予定である。以上4回のアメリカにおける発表では配布資料として約15ページのパンフレットを印刷した。原稿を飛ばし読みすることで短時間に発表の論旨を正確に聴衆に伝えた。

(4) 実績の全体像

日本における発表は初期アメリカ学会で1時間にわたって行ない、マサチューセッツとコネチカットの勅許状の相違について分析し、フッカーの思想、独立革命時の旧北西部における領有権争いに勅許状が根拠として利用されたことを明らかにした。本研究の4年間の研究期間で日本とアメリカにおける発表を行い、書評から論文を経て単行本まで執筆し、現地調査と研究発表をバランスよく実施できたと思う。海外共同研究者との交流も活発に行い、予期した以上の成果が得られたと自負している。本研究の成果をベースにさらに19世紀文学やエマソンに関する研究を進めたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 1
2. 論文標題 「アメリカニズムの創成（1492-1816）」の「時代思潮」、および「植民地文学」「ピューリタン文学」「リパブリカニズム」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『21世紀から見るアメリカ文学史：アメリカニズムの変容』	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 82
2. 論文標題 マサチューセッツとコネチカットの勅許状における領土と民主主義 ウィンスロップからAbel Buel II作の合衆国地図まで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 初期アメリカ学会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 1
2. 論文標題 Silence and Expression in Edwards and Emerson	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Handouts at the presentation at Northeast Modern Language Association	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 44
2. 論文標題 国際学会報告「全米ソロー学会ヘンリー・デイヴィッド・ソロー生誕200周年記念大会」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ヘンリー・ソロー研究論集	6. 最初と最後の頁 73-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 55
2. 論文標題 書評 堀内正規著『エマソン 自己から世界へ』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『アメリカ文学研究』（日本アメリカ文学会）	6. 最初と最後の頁 98-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 1
2. 論文標題 「ピューリタニズムと文学」、「アメリカ合衆国の四季の祭り」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『英語教師力アップシリーズ 授業力アップのための英語圏文化・文学の基礎知識』	6. 最初と最後の頁 171-178, 206-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 1
2. 論文標題 Paradoxical Truth in Emerson and Thoreau	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Henry David Thoreau in the 21st Century: Perspectives from Japan	6. 最初と最後の頁 216-230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 26
2. 論文標題 「アメリカの民主主義と自由の理念 植民地時代からアメリカ独立革命まで」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 創価大学文学部英文学会Newsletter	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 95
2. 論文標題 書評 小野和人著『生きている道 ソローの非日常空間と宇宙』)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『英文学研究』（日本英文学会）	6. 最初と最後の頁 94-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.20759/elsjp.94.0_94	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 1
2. 論文標題 Language of Paradox in Thoreau and Emerson	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Handouts at the Presentation at Thoreau Bicentennial Gathering 2017	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 1
2. 論文標題 Ralph Waldo Emerson and the Antislavery Movement	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Handouts at the Presentation at NeMLA	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 David D. Hall	4. 巻 26
2. 論文標題 Church and State in America, Past and Present	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際比較政治研究	6. 最初と最後の頁 83-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 1
2. 論文標題 Concord Community and Emerson's Antislavery Movement	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Handouts at the Presentation at Thoreau Society Annual Gathering 2019	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉いずみ	4. 巻 42
2. 論文標題 書評 エリック・ラーソン著、佐久間みかよ訳『第三帝国の愛人 ヒトラーと対峙したアメリカ大使一家』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ヘンリー・ソロー研究論集	6. 最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sarah Ann Wider	4. 巻 28
2. 論文標題 What Was It that Nature Would Say: Eavesdropping on the Emerson-Sturgis Correspondence	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際比較政治研究	6. 最初と最後の頁 111-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中根一貴	4. 巻 29-2
2. 論文標題 『チェコのベルルスコーニ』の挑戦 ANOの成功とチェコ政党政治	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大東法学	6. 最初と最後の頁 33-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中根一貴	4. 巻 29
2. 論文標題 世紀転換期チェコ政治におけるリーダーシップ研究の可能性 ヨゼフ・カイツルに関する研究の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際比較政治研究	6. 最初と最後の頁 99-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 小倉いずみ
2. 発表標題 マサチューセッツとコネチカットの勅許状における領土と民主主義 ウィンスロップからAbel Buel I作の合衆国地図まで
3. 学会等名 初期アメリカ学会第78回例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉いずみ
2. 発表標題 Silence and Expression in Edwards and Emerson
3. 学会等名 Northeast Modern Language Association 50th Anniversary Convention (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中根一貴
2. 発表標題 ポピュリスト (急進) 右翼政党とチェコ政治の変容?
3. 学会等名 日本比較政治学会第21回大会 分科会A 東欧と西欧におけるポピュリスト (急進) 右翼政党
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小倉いずみ
2. 発表標題 Language of Paradox in Thoreau and Emerson
3. 学会等名 Thoreau Bicentennial Gathering 2017: Celebrating the Life, Works, and Legacy of Henry David Thoreau, The Thoreau Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小倉いずみ
2. 発表標題 Abel Buellによる最初のアメリカ合衆国地図
3. 学会等名 第62回九州アメリカ文学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小倉いずみ
2. 発表標題 Ralph Waldo Emerson and the Antislavery Movement
3. 学会等名 The 48th Northeast Modern Language Association Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小倉いずみ
2. 発表標題 アメリカの民主主義と自由の理念 植民地時代からアメリカ独立革命まで
3. 学会等名 創価大学英文学会秋季講演会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 David D. Hall
2. 発表標題 Church and State in America, Past and Present
3. 学会等名 国際比較政治研究所・初期アメリカ学会共催（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小倉いずみ
2. 発表標題 Concord Community and Emerson's Antislavery Movement
3. 学会等名 Thoreau Society Annual Gathering 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sarah Ann Wider
2. 発表標題 What Was It that Nature Would Say: Eavesdropping on the Emerson-Sturgis Correspondence
3. 学会等名 国際比較政治研究所・日本ソロー学会共催（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中根一貴
2. 発表標題 ヨゼフ・カイツル 世紀転換期チェコ政治における狭間の政治指導者
3. 学会等名 大東文化大学国際比較政治研究所第3回研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 小倉いずみ（早瀬博範編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 英宝社	5. 総ページ数 235
3. 書名 21世紀から見るアメリカ文学史：アメリカニズムの変容（改訂版）	

1. 著者名 小倉いずみ（江藤 秀一、鈴木 章能編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 336
3. 書名 『英語教師力アップシリーズ 授業力アップのための英語圏文化・文学の基礎知識』	

1. 著者名 小倉いずみ（堀内正規編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 283
3. 書名 Henry David Thoreau in the 21st Century: Perspectives from Japan	

1. 著者名 中根一貴	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 253
3. 書名 『政治の一体性と政党間競争 - 20世紀初頭チェコ政党政治の展開と変容』	

1. 著者名 小倉いずみ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 440
3. 書名 トマス・フッカーとコネチカット	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ホームページのタイトル: Academic Achievement http://achieve.server-shared.com/~izumi</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中根 一貴 (Nakane Kazutaka) (10600645)	大東文化大学・法学部・准教授 (32636)	
研究協力者	デヴィッド ホール (Hall David)	ハーバード大学・Divinity School・Research Professor	
研究協力者	ラーザー ジフ (Ziff Larzer)	ジョンズ・ホプキンス大学・English Department・Research Professor	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力 者	ローソン アラン (Lawson Alan)	ボストン大学・History Department・Professor Emeritus	